

地域おこし協力隊 野津周平さん (政策企画課)

まったく想像もしていなかった、  
新たな道。  
可能性を模索できた2年間

(取材・文・撮影／家入明日美)



島根県出身。熊本大学卒業後、いったんは地元就職。2021年4月、地域おこし協力隊(スマートヴィレッジ推進プロジェクト)として熊本県南阿蘇村へ。協力隊着任後プログラミング専門講座を受講するなど、知識と技術を磨いてきた野津さん。2023年3月をもって退任します。

右／小学校のクラブ活動で、パソコンやプログラミングについて教える野津さん。

上／教育委員会とタッグを組んで、ドローンを使ったプログラミング授業を実施。



地域おこし協力隊として、熊本県に「帰ってきた」野津周平さん。「その頃にはまったく考えていなかった道が開けました」と、スマートヴィレッジ推進プロジェクトに携わった、この2年を振り返ります。

「スマートヴィレッジ構想」を掲げる南阿蘇村。村のさまざまな課題をITで解決していこうと、熊本・福岡のIT企業が主体となって結成されたITバレー協議会と村とで、連携協定を結んでいます。野津さんの主な役割は、協議会と村の橋渡し役。ICT人材育成などを目的に整備された「南阿蘇村ICT交流センター」の運営サポートや、旧中松小学校を活用したICT拠点「中松集学校」への企業サテライトオフィス誘致活動、放牧牛の居場所をGPSで把握する試験などに携わってきました。

とりわけ野津さんが楽しみにしていたのが、小学生

を対象にしたプログラミング教室。ゲームを作ったり、ドローンに「直進」「旋回」などの動作プログラムを入力して飛行させてみたり。「かなり高度な内容でしたが、とても喜んでもらえました」。

テレビ局の営業マンからの転身。知識ゼロからの挑戦には苦労もあったでしょう。「仕事を創造して提案していくという点で、力不足は否めなかった。でも、いろいろなIT企業の人と一緒に仕事をする貴重な機会をいただきました。役場の職員さんがいろいろと気をつけてくださることも多くて、とてもありがたかったです」と話します。

退任後も、南阿蘇村でICTを主軸に据えた仕事に携わる予定。情報分野にますます注目が集まるいま、野津さんのこれからの活躍に、期待がふくらみます。



左／バイクにはまった、大学生時代。当時の仲間存在が、熊本に「帰る」きっかけのひとつになりました。

中／「自分の責任で動物を撃って捌いて食べてみたい」と、南阿蘇村に移住してからハンターの免許を取得。

右／2022年、落花生を育てて収穫する村内のイベントに参加。「びっくりするくらいおいしかった！」。